



思想  
善導

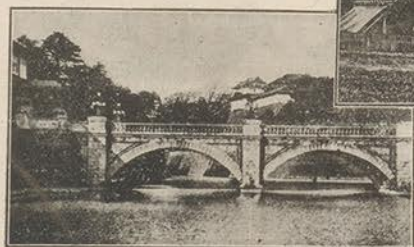
大和百人一首

内務大臣  
帝復興院總裁  
文部大臣

子爵 後藤新平閣下  
岡野敬次郎閣下

贊助後援





下殿宮政攝

下殿王女子良

器神の種三

城

宮

宮神勢伊

進德  
修業



大正十二年  
十月

新平題





和神

養素

敬次郎

思想 大和百人一首發行趣旨

諸冊二神國土ヲ生ミ太祖降臨シ給ヒテ茲ニ三千年萬世一系ノ皇統ハ連續トシテ斷ユス兆民之ニヨリテ安ケ  
レハ大和島根ノ礎益々堅ク金甌無缺ノ美萬古ニ冠絶スコレ即チ國體ノ精華ニシテ時ニ萬衆ノ櫻ト開キ凝リテ  
百煉ノ鐵トナリ凜烈日月ヲ貫クモノアリ

往昔和氣清鷹ヲシテ逆豎ノ頭上ニ膺懲ノ鐵槌ヲ下サシメ或ハ鎌倉ノ窟ニ憂憤ノ淚ヲ吞ミ或ハ吉野ノ山ニ或ハ  
湊川ニ或ハ穩岐ノ海ニ近クハ遼東ノ邊ニ滿州ノ野ニ誠忠鬼神ヲ泣カシメタル實ニ國體精華ノ發露ナリ而カモ  
此氣常ニ溥勃トシテ天地ニ塞チ終ニ維新ノ鴻業トナレリコレ眞ニ我國古來ノ大業ニシテ光輝アル三千年ノ歷  
史ニ更ラニ一大光彩ヲ添ヘタルモノト謂フヘシ

明治大帝殊ニ英邁ノ天資ヲ以テ皇威ヲ八纒ニ輝カシ國位ヲ列強ノ班ニ列ネ鵬翼ヲ無邊ノ疆ニ伸ヘ給ヘルヲ  
以テ我國體ノ精華遺骸ナク發揮シ世界ノ人心ヲ指導スルニ至リタルハ千古ノ快事ト云フヘシ

我等國民タルモノ斯ノ玲瓏玉ノ如キ國體ニ血ヲ享ケ赫耀タル歴史ヲ有セル此ノ聖代ニ生レ文明ノ恩澤ニ浴シ  
歡喜ニ堪ヘサルヲ以テ相擧リテ永遠ニ此ノ聖事ヲ記念シテ子女ヲ教養シ第二ノ國民ヲシテ其ノ嚮フトコロヲ  
誤ラサラシメ曠古ノ御遺業ヲ全カラシムルノ責ヲ有ス

然ルニ現今外來思想ノ跳梁ト物質文明ノ發達トニ伴ヒ洵ニ憂フヘキ現象ヲ呈シ其ノ害毒ハ滔々トシテ四海ニ  
充チ我國體ノ特質ヲ解セサル輕佻者ハ之ニ内應シ國礎ヲ危クシ父祖ノ靈ヲ辱メテ願ミヌ加之世ノ青年男女漸  
ク剛健尙武ノ氣風ヲ失ヒ平和ノ夢ニ憧憬シ稜々天ヲ衝クノ意氣ヲ失フ痛マシイ哉平和素ヨリ吾人ノ希フ所ナ



リト雖モ抑モ平和ヲ招來スル所以ノモノハ文弱ニアラス意慢ニアラス墮落ニアラス國防ノ弛緩ニアラサルヤ明ナリ彼ノ世界大戰ノ慘禍ハ其ノ反動トシテ國際聯盟トナリ華府會議トナリ著ク平和熱物興シ戰爭ノ絶無ヲ豫想セシムルカ如クナリト雖モ之レ實ニ皮相ノ觀ニシテ平和主義ハ平和ヲ招致スル所以ニアラス見ヨ國家主義尙武主義ハ宇内ニ横溢シ將來ノ戰爭ニ對スル準備ハ隱密ニ實行セラレツ、アリ一皮ヲ剥セハ慘風暴雨到ラントス第二ノ元寇ニハ神風果シテ天來スヘキカ將來ノ外患ニハ天祐ヲノミ希フヘキカ一葉既ニ落チヌ天下ノ秋當ニ知ルヘキノミ

此ノ秋ニ方リ眞ニ國ヲ愛フルノ士有リト雖モ大勢ノ趨クトコロ當ルヘカラス譬ヘハ大厦ノ傾ク一木ノ支フヘキニアラサルカ如シ大和民族タル血ノ通フ處日章旗ノ輝ク涯須ラク舉國一致シテ迷夢ヲ破リ國是ヲ固メ國體ヲ擁護シ帝國ヲシテ富嶽ノ安キニ置キ誓ツテ宸襟ヲ安ンシ奉リ惹イテ世界永遠ノ平和ヲ確保シ人類ノ幸福ヲ増進スヘシ之レ一ニ懸リテ我等國民ノ雙肩ニアリ即チ我帝國ノ使命ハ實ニ人類永遠ノ平和ヲ保證シ正義ヲ授ケ邪曲ヲ挫キ世界ノ文明ヲ指導スルニ在リト謂フヘシ

然リ而シテ斯ク思想ノ混沌タル現時ニ處シ毅然トシテ我國體ヲ擁護シ新日本文化ヲ建設シテ世界人心ヲ指導センカ爲ニハ我國體ノ精華ヲ説キ我國民精神ヲ陶冶シ我國民道徳ヲ涵養ヤサルヘカラス之レカ爲ニハ國家的社會的ニ幾多ノ施設アルヘシト雖モ先ツ國民教育ノ根本タル家庭ニテ父子兄弟親戚故舊團圓起居ノ間親灸セシムヘキモノナキニ苦ム

茲ニ於テ乎余ハ大和百人一首並ニ其歌留多ヲ案出シ其ノ一助タラシメントス

夫レ眞理ハ平凡ニアリ實行ハ近キニアル信シテ疑ハサルナリ從來家庭ノ娛樂物トシテ愛玩シ來レル小倉白人

一首ハ古日本文化ノ跡ヲ語ルモノニシテ之ヲ棄ツルニ忍ヒサルモ其歌多クハ古朝臣カ文藝精華ノ夢物語ニシテ今日健全ナル子女ノ教養ニ資スルニ足ラサルノミカ徒ラニ幼稚ナル青春期ノ男女ヲシテ修辭ノ流麗ナルヨリ不知不識志操ノ軟弱ニ陥ラシメ以テ百年ノ計ヲ過タシムルノ憂ナキヲ保シ難シ加フルニ現今家庭ニアル圖書雜誌等ノ中淫猥讀ムニ堪ヘス思想ヲシテ益々惡化セシムルカ如キモノ多キヲ遺憾トス

吾國ノ士誰カ之ヲ憂慮セサル者アラン

大和百人一首並ニ其歌留多ハ實ニ叙上ノ大抱負ヲ以テ發案セシモノニシテ歐洲大戰後世人平和ノ歡樂ニ醉ヒ得ルハ抑モ一ニ我國體ノ特質ト往年先輩諸士カ流セル熱血ノ依ツテ生メル賜トニ因ルモノナルコトモ何時シカ志レントシ徒ラニ他國ノ宣傳ニ心醉シテ滔々思想ノ惡化シユク有様ヲ坐視スルニ忍ヒス遂ニ微力ヲ省ミス之カ防止善導ノ一助ニモセントテ日夜刻苦腐心以テ考案完成セル處ニシテ畏クモ遠クハ日本武尊 後鳥羽天皇 後醍醐天皇 龜山天皇 近クハ 孝明天皇 明治天皇 照憲皇太后 今上天皇陛下 今上皇后陛下 攝政宮殿下 良子女王殿下 ヲ始メ奉リ各皇族殿下維新ノ功臣志士古今勤王ノ烈士烈女人傑ヲ網羅シ家庭ノ寶典タルト與ニ國民善導ノ指針タラシメント欲ス

蒐メシ歌ハ皆是レ國體ノ精華國民性ノ象徵ニシテ言々句句金玉ノ聲タラスンハ亦誠ノ發露セルモノナリ是ヲ諷詠シテ列聖ノ遺徳ヲ偲ヒ故英雄ノ心事ニ接シ勤王愛國志士ノ孤忠ニ泣キ聖賢ノ深奥ナル哲理ヲ味ヒ更ラニ國詩ノ玄妙ナル琴線ニ觸レテ無限ノ妙音ヲ聽クヲ得ヘシ

故ヲ以テ是ヲ坐右ニ具ヘテ銘トシ是ヲ篋底ニ藏シテ重寶トシ是ヲ春宵ノ團圓ニ用ヒテ歡樂ヲ擅ニシ親睦ヲ計ハヲ得ヘク而シテ不知不識ノ間ニ精神ヲ養ヒ報國ノ念ヲ固ムルヲ得ヘシ

況や遍く兒童ノ教材ニ資シテ服膺セシメンカ以テ國民教育ノ一助タラシムルヲ得ルヲヤ  
庶幾クハ四方諸君子之ヲ以テ國民ノ自覺ヲ促シ彼ノ危險思想ヲ撲滅スルノ一端トシ無窮ナル國礎ヲ磐石ノ安  
キニ据ウル緒トナルヲ得ハ本懐トスルトコロ地下ノ故人亦以テ瞑スルニ足ルヘシ  
畏クモ 攝政宮殿下 良子女王殿下 ニハ來春一月二月ノ交ヲ以テ御成婚ノ御儀ヲ舉ゲサセラルト聞ク我國  
民ノ今ヨリ均シク慶賀ニ堪ヘサルトコロナリ  
此時ニ及ヒ大和百人一首並ニ同歌留多ノ完成ヲ見ルニ至リタルハ余ニ取リテハ實ニ御慶事ヲ記念シ奉ル唯一  
ノ事業ナリト喜悅ニ堪ヘサル所ナリ

攝政宮殿下 良子女王殿下ノ御成婚ヲ祝ヒ奉リテ

この世とし答むす下の人までも

たゝへまつらむけふのみさかえ

大正十二年秋 日

芙蓉ノ北笛水ノ邊ニ於テ

中 村 忠 次 謹 識

### 大 和 百 人 一 首

新治筑波を過ぎて幾夜かねつるかゝなへて夜には九夜

日には十日を

日本 武 尊

われこそは新島守よ穩岐の海の荒き波風心して吹け  
さして行く笠置の山を出てしより天が下には隠家もなし  
四方の海波治りてのとかなる我か日の本に春は來にけり  
白波の幾夜かさねてせめ來とも大和島根の動くへきやは  
古の文見るたひに思ふかなおのか治むる國はいかにと  
四方の海皆はらからとむつみなは世に波風は立たしとぞ思ふ  
神祀る我白沙の袖のへにかつうすれゆくともし火のかけ  
うつふしてにほふはるののはなすみれとひのこゝろに

うつしてしかな

後鳥羽天皇  
後醍醐天皇  
龜山天皇  
孝明天皇  
明治天皇  
照憲皇太后  
今上天皇  
今上皇后



あかつきにこまをとめて見渡せば讃岐のふじに雲そかゝれる  
すそ野のみはるかに見ゆるふしの山たかねはいまや

みゆきふるらむ

世のうさを空にも知るや神無月ことわりすきて降る時雨かな

君の爲世の爲何か惜しからむ捨て、甲斐ある命なりせば

知るやいかに世を秋風の吹くからに露もとまらぬ我心かな

久方の雲井のとけく君か代をうたふは鶴の千歳なりけり

さゝねさし相模の小野に燃ゆる火の火中に立ちて問ひし君はも

海ならてたよへる水の底までも清き心は月を照さむ

勅なれはいともかしこし鶯の宿はとは、如何こたへむ

都には花の名残をとめ置きてけふ下芝につとふ白雪

吹く風を勿來關と思へとも道もせに散る山櫻かな

埋木の花咲くこともなかりしにみのなりはてそあはれなりける

攝政宮  
良子女王

尊良親王

宗良親王

懷良親王

有栖川宮熾仁親王

弟橘姫

菅原道真

紀貫之娘

源頼義

源義家

源頼政

まどろめは夢にもみしぬうつゝにも忘るゝほとこの

つかのまもなし

見る度にいと、涙のますかゝみ戀しき人の影をとめねは

露ふかき浅茅原に迷ふ身のいと、やみぢに入るそ悲しき

山はさけ海はあせなむ世なりとも君にふた心我あらめやも

故郷に今宵はかりの命とも知らてや人の我を待つらむ

故郷も今宵はかりの命そと知りてや君かわれを待つらむ

此の秋の涙をそへて時雨にし山はいかなる紅葉とかしる

住み捨つる山を浮世の人とは、あらしや庭の松にこたへむ

古もかゝるためしを菊川の同し流に身をや沈めむ

思ふこと無くてそ見ましほのゝと有朋の月の志賀の浦風

かはらぬをかたみとなして咲く花の都は猶もしのはれにける

久方の天津みかとの安かれといのるは國の水分の神

源頼朝

靜御前

袈裟御前

源實朝

菊地武時

菊地武時妻

藤原隆資

藤原藤房

藤原俊基

藤原師賢

源忠顯

楠正成



我袖の涙にやとるかけとたに志して雲井の月やすむらむ  
幾里の月に心をつくすらむ都の秋を見すなりしより  
とても世になからふへくもあらぬ身のかりのちきりや

いかて結はむ

あひ見むと思ふ心を先に立て、袖に知られぬ道芝の露  
けふの日もよしさはくれよくれてこそ枕もからめ花の下影  
黒髪くろかみの亂れたる世そはてしなき思にきゆる露の玉の緒  
忍しのひつゝ霞とともになかめしもあらはれけりな花の木のもと  
なかめやる海つら遠く雲はれて波より出つる月のさやけさ  
心あてに見し夕貌の花散りて尋ねそ詫わづらふる黄昏たそがの宿  
うは玉の夜は見えわかす山櫻ちもと五百もと花は匂へと  
敷島の大和心を人とは、朝日に匂ふ山櫻花  
敵あらはいても見せむ武夫の彌生なかはの睡りさましに

八  
新田 義貞  
北畠 親房  
楠 正行  
辨 内侍  
毛利 元就  
勝 頼妻  
豊 臣秀吉  
徳川 光圀  
松 平定信  
頼 山陽  
本居 宣長  
徳川 齋昭

うみの子に赤き心を傳へつゝ萬代かけてつかへまつらむ  
すくふへき力のかひもなか空のめくみにもれて死ぬそくやしき  
歎なげかるゝ身よりも歎く老の身を歎きこそすれ歎かるゝ身を  
梓弓あやこ矢竹心の武夫も親にひかれて迷ふ死出かな  
ひ江の山みおろすかたそあはれなるけふ九重のかすし足らねは  
朽ちはてし身は土となりはかなくも心は國を守らんものを  
曇るとも何かうらみむ月今宵晴をまつへき身にしあらねは  
我罪は君か代思ふ真心の深からさりししるしなりけり  
老の身の終るいのちはをしからて世にいさをしの  
なきそかなしき

君か代を思ふ心の一筋に吾身ありとは思はさりけり  
時にはあは、散るもめてたし山櫻めつるは花のさかりのみかは  
鳴かすあらは誰かは知らむほと、きすさみたれ闇く

藤田 東湖  
林 子平  
高野 長英  
渡邊 華山  
蒲生 君平  
高山 彦九郎  
山縣 大貳  
頼三 樹三郎  
梁川 星巖  
梅田 雲濱  
佐久間 象山  
吉田 松陰  
九

降りつゝく夜は

吉野山風に亂るゝもみち葉はわかうつ太刀の血煙を見よ

雲をふみいはほ咲くらむ武夫の鎧の袖に紅葉かつちる

鳥か鳴く東健夫の真心は鹿島の里のあなたともしれ

國の爲積る思も天津日にとけて嬉しき今日の泡雪

ふる雪の年は積れり梅の花立ち枝しつ枝に風かほれとも

華浦の松の葉白く置く霜と消ゆるはあはれ一さかりかな

宿かさぬ人のつらさを情にて朧月夜の花の下臥

いといふつらぬきとめし花なれば木すゑの雨よ心して降れ

君か爲命死にきと世の人に語りつけてよ峰の松風

大君の爲には何か惜しからむ薩摩のせとに身は沈むとも

西の海あつまの空はかはれとも心はおなし君か代の爲

咲く梅の風に空しく散るとても警りは君か袖にうつらむ

吉村寅太郎

藤本鐵石

高橋多一郎

齊藤監物

小松帶刀

野村望東尼

蓮月尼

川瀬幸女

松本奎堂

月照

信海

武田耕雲齊

今しはし待てや都の花紅葉行幸あるよと爲さてやむへき

けふもまた知られぬ露の命もて千歳を照す月を見るかな

くるしさはたゆる我身の夕煙空にたつ名はすてかてにして

飛鳥川トビカガハのふにかはる世の中のうき瀬に立つは我身なりけり

今ひとよ經なはさかりと見む花を思はぬ雨に色のあせゆく

ますかゝみ清き心は玉の緒のたえてし後そ世に知らるへき

玉の緒の絶ゆともよしや我君のかけの名残とならんと思へは

かねてより思ひそめにし言の葉を今日大君に告げて嬉しき

匂ふとも咲くとも知らて糸櫻くるしき春を過す年かな

大君は如何に在ますと仰き見れば高間の原を霞こめたる

追風に月のいさよふ間も待たすはや乗りぬけよ木津川の口

はかなくも三十年の夢は覺めてけり赤馬關の夏の夜の雲

夜ふかくも草葉のつゆにそほちつゝあらぬ野山の月を見るかな

平野國臣

久坂義助

福原越後

國司信濃

竹内式部

金子孫二郎

安島帶刀

藤田小四郎

近衛忠燕

三條實美

中山忠光

錦小路頼徳

岩倉俱視



舞人の袖ふき返す春風にみはしの花も香に匂ひつゝ  
 君の爲花にもうとくなりにけり花を見捨つる我ならなくに  
 すめらきの御稜威は比叡の山嵐吹きしつむへき鴉の海原  
 西へ行く人を慕ふて東行く我心根を神や知るらむ  
 ふたつなき道に此身を捨小舟波立たは立て風吹かは吹け  
 心からのとけくもあり野邊はなほ雪けなからに春風そ吹く  
 露霜や雪を凌きて梅か香の花の魁けふ匂ひけり  
 やはた山陰らふ松の若みとりさかゆく御代の春や見すらむ  
 木止山しらむとりてのすてかゝり煙ると見しは櫻なりけり  
 とても死る汝か命はをしまねとかくてはなけく國のゆくすえ  
 岩かねも透らさらめや武夫の國安かれと思ひける太刀  
 國の爲君の爲とていましはし忍ぶが岡にすみそめの袖  
 君まさは語らむことのさわなるに南無阿彌陀佛我も老いたり

鳥津久光  
 山内客堂  
 松平春嶽  
 高杉晋作  
 西郷隆盛  
 坂本龍馬  
 中岡眞太郎  
 木戸光允  
 山縣有朋  
 横井小楠  
 有村治左衛門  
 徳川慶喜  
 勝海舟

思ひきや數ならぬ身のかくまてにふかき恵の露かゝるとは  
 うつし世を神去りましゝ大君のみあとしたひて我はゆくなり  
 出てまして歸ります日となしときく今日のみゆきに

あふそかなしき

七八度皇御國に生れきてわか眞心を君につくさむ  
 五十鈴川流も清きみなもとばよろつ代かけてすみわたるらむ

村岡局  
 乃木希典  
 乃木静子  
 廣瀬中佐  
 橘中佐

書名 大和百人一首  
 著者名 中村忠次  
 刊行日 昭和7年6月2日  
 代價 20  
 (大屋書店) 全06  
 田野邊圖書

1001975737

複製  
 不許

大正十二年十二月十日印刷  
 大正十二年十二月十五日發行

定價金十五錢

編輯者

山梨縣東山梨郡岩手村五十三番戶  
 中村忠次

印刷所

東京市四谷區尾張町五番地  
 万月堂印刷所

印刷者

有吉黃楊

電話九段三〇七二番

發行所

思想  
 善導

東京市麴町區土手三番町十五番地  
 大和百人一首普及本部

電話九段一四五〇番



書名 大和百人一首  
 著者名 中村忠次  
 刊入日 昭和7年6月2日  
 代價 20  
 (大屋書店) 全06  
 田野邊圖書

複製  
 不許

大正十二年十二月十日印刷  
 大正十二年十二月十五日發行

定價金十五錢

編輯者

山梨縣東山梨郡岩手村五十三番戶  
 中村忠次

印刷所

東京市四谷區尾張町五番地  
 万月堂印刷所

印刷者

有吉黃楊  
 電話九段三〇七二番

發行所

思想  
 善導  
 東京市麴町區土手三番町十五番地  
 大和百人一首普及本部

電話九段一四五〇番

書名 大和百人一首  
 著者名 中村忠次  
 購入日 昭和11年6月2日  
 代價 30  
 (大屋書店) 室06  
 田野邊圖書票

1001975737

複製  
 不許

大正十二年十二月十日印刷  
 大正十二年十二月十五日發行

定價金十五錢

編輯者

山梨縣東山梨郡岩手村五十三番戶  
 中村忠次

印刷所

東京市四谷區尾張町五番地  
 万月堂印刷所  
 有吉黃楊

印刷者

電話九段三〇七二番

發行所

思想  
 善導  
 東京市麴町區土手三番町十五番地  
 大和百人一首普及會  
 電話九段

23



